

## きほくのまち人探訪



おかの  
岡野  
りょうた  
凌大さん

いちご農家を目指し、2月から鬼北町農業研修生となった岡野凌大さん。これから2年間にわたり、鬼北町農業公社で、さまざまな農産物の栽培方法や農業経営の知識などを学んでいきます。

北宇和高校生産食品科を卒業後、農業大学校に進学した岡野さん。高校生のときに本格的に農業に携わり、手間をかければかけるほど、収穫するとき野菜や果物が応えてくれることに農業の魅力を感じました。これまでさまざまな農産物の栽培や販売を経験し、その中でも特に人気の高かったいちごに

## 「いちご農家への道を日々前進」

注目。おいしいいちごを作れば、たくさんの人に喜んでもらえるとともに売上も見込めるのではないかと考えました。経営のノウハウを学ぶため、町内のいちご農家を訪ねるなどして、一歩ずついちご農家への道を進む一方、岡野さんを悩ませているのが農地の取得。「いい農地があればぜひ教えてほしい」と切実に呼び掛けています。

「糖度が高いいちごにこだわりながら、いちごが鬼北町の新たな特産品になれるように頑張りたい」と力強く話していました。

## ALTの鬼の里Diary ~Devin編~



昔話は、日本だけではなく世界各地に存在します。そこに住む人たちの生活や文化の違いによって、その話は多種多様です。多くの物語には、トリックスターと呼ばれる物語を大きく展開させるキャラクターが登場します。このキャラクターはいたずら好きとして描かれることが多く、物語によって善人のときもあれば、悪者として登場することもあります。

日本の昔話で言えば、タヌキです。「分福茶釜」に登場するタヌキは、踊りを披露し、お金を稼ぐ良いタヌキです。その一方で「かちかち山」に登場

## 「Get to know the old tales of the world」

するタヌキは、畑の野菜を盗むなどたくさんのおそろしさをします。

アメリカ南西部には、ナバホ族というネイティブアメリカンの部族がいます。ナバホ族の昔話によく登場するのがコヨーテです。コヨーテは、ある話では、きれいに星を並べるように言われたのにもかかわらず、星をばらまきます。別の話では巨人をだまして、多くの子どもたちを救います。物語によって登場するコヨーテの役割はさまざまです。

皆さんもぜひ世界の昔話に目を向けてください。とても面白いですよ。

## 地域おこし協力隊活動日記

地域おこし協力隊3年目  
はやかわ ゆうこ  
早川 優子



3月31日をもって、協力隊の3年間の任期を終えることになりました。2018年に鬼北町の風景に魅力を感じ、東京から移住しました。あっという間の3年間でした。

鬼北町はどこを見ても絵になる景色。毎日のように近所を歩き、写真を撮ることが日課となっていました。地域の方には当たり前な日常の景色ですが、私から見ると新鮮に見える鬼北町の景色、この違いをたくさんの人に見ていただきたいと思うようになりました。

そして、2月に1カ月間、今まで撮った風景写真を「きほくらし」と題し、アエールきほくで写真展を開催させ

## 「これからも「きほくらし」を続けていきます」

ていただきました。来場していただいた方と一緒に展示した写真を見ながら、地域の皆さんの思い出話を聞いたり、地域の方が撮られた写真を見せてもらったりする機会もあり、とても貴重な時間となりました。たくさんの方に展示会に来ていただき、感謝の思いでいっぱいです。

任期後は、引き続き鬼北町に残り、移住を考えている人へ町の魅力を伝えながら、支援をしていきたいと思っています。これからも「日々の暮らしを大切に」をモットーに楽しみながら、きほくらしを続けていきます。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。